

2023年7月2日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒41番（旧28番）（KH姉）

『讃えの歌こそ』

聖書⇒イザヤ書 35:1~10節（MM姉）

『荒れ野よ、荒れ地よ、喜び躍れ／砂漠よ、喜び、花を咲かせよ／野ばらの花を一面に咲かせよ。

花を咲かせ／大いに喜んで、声をあげよ。

砂漠はレバノンの栄光を与えられ／カルメルとシャロンの輝きに飾られる。

人々は主の栄光と我らの神の輝きを見る。

弱った手に力を込め／よろめく膝を強くせよ。

心おののく人々に言え。「雄々しくあれ、恐れるな。見よ、あなたたちの神を。

敵を打ち、悪に報いる神が来られる。神は来て、あなたたちを救われる。」

そのとき、見えない人の目が開き／聞こえない人の耳が開く。

そのとき／歩けなかった人が鹿のように躍り上がる。

口の利けなかった人が喜び歌う。

荒れ野に水が湧きいで／荒れ地に川が流れる。

熱した砂地は湖となり／乾いた地は水の湧くところとなる。

山犬がうずくまるところは／葦やパピルスの茂るところとなる。

そこに大路が敷かれる。その道は聖なる道と呼ばれ／汚れた者がその道を通ることはない。

主御自身はその民に先立って歩まれ／愚か者がそこに迷い入ることはない。

そこに、獅子はおらず／獣が上って来て襲いかかることもない。

解き放たれた人々がそこを進み

主に贖われた人々は帰って来る。

とこしえの喜びを先頭に立てて／喜び歌いつつシオンに帰り着く。

喜びと楽しみが彼らを迎え／嘆きと悲しみは逃げ去る。』

礼拝讃美歌⇒209番（旧300番）

『いつかは知らねど』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 30:21~26 節 (NH 兄)

『ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです。』

礼拝讃美歌⇒151 番 (旧 216 番)

『ああ主よわれら』

(祈り)

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11:23~26 節 (KH 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒148 番 (旧 94 番曲)

『主の御旨により』

《建徳》

聖書⇒ローマの信徒への手紙 6:3~5 節 (NH 兄)

『それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死

にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるとすれば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 11:17~18 節

『しかし、ある枝が折り取られ、野生のオリーブであるあなたが、その代わりに接ぎ木され、根から豊かな養分を受けるようになったからといって、折り取られた枝に対して誇ってはなりません。誇ったところで、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。』

聖書⇒マタイによる福音書 16:24 節

『それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。』

聖書⇒コロサイの信徒への手紙 2:12 節

『洗礼によって、キリストと共に葬られ、また、キリストを死者の中から復活させた神の力を信じて、キリストと共に復活させられたのです。』

聖書⇒マタイによる福音書 6:28~31 節 (KH 兄)

『なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 10:1~5 節

『「はっきり言うておく。羊の囲いに入るのに、門を通らないでほかの所を乗り越えて来る者は、盗人であり、強盗である。門から入る者が羊飼いだである。門番は羊飼いに門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立って行く。羊はその声を知っているので、ついて行く。しかし、ほかの者には決してついて行かず、逃げ去る。ほかの者たちの声を知らないからである。』

礼拝讃美歌⇒84 番 (旧 30 番)

『良き羊飼いは』

《建德要旨》